

## 二宮町立二宮中学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、  
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(2年次)

### 1、実践の目的

学習活動において「主体的・対話的で深い学び」を通して、二宮町が育みたい汎用的な資質・能力を育成したい。そのために小学校で身に付けた資質・能力を中学校に引き継ぎ、発展させることが必要である。そこで義務教育9年間を見通して、小・中学校が共通性と一貫性のある指導・支援を行うことが不可欠であると捉えた。このことにより、小・中学校の指導・支援がぶれることなく資質・能力を育成することができると考えた。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう力 人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

また、児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と思えるのは所属する集団で「自分のよさを発揮できていること」言い換えれば「自分にはよいところがあると思える」ことが重要な要素と考えられる。このように一人一人の児童生徒がかけがえのない存在として認められている必要がある。そのためには小・中学校を問わず「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」に前述と同様、共通性と一貫性を持って取り組む必要がある。このことが「学びに向かう力」の基盤づくりにつながると考えた。

以上2つを実践の目的とした。

### 2、実践の内容

#### (1) 5校統一の講師と研究の手引き

研究を推進するに当たり共通性と一貫性をもって研究に取り組めるように、二宮町5校統一の講師として教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を迎え、各校で行われる校内授業研究会に事前検討会を含めて指導・助言を仰いでいる。また講師監修のもと研究の手引きを作成し、全ての先生方に配付し、それに基づいて研究に取り組んでいる。



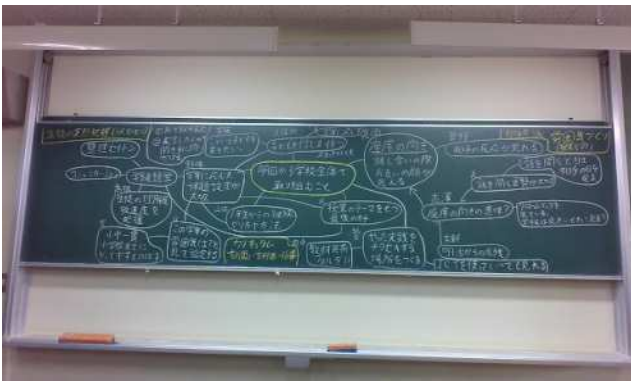
#### (2) 研究授業、研究協議の様子

校内研究授業を1学期に3年生4クラス、2学期に2年生3クラス、1年生3クラスの計10クラスで行った。どの授業でも話し合い活動を取り入れた授業を行い、様々な授業実践例を全職員で共有することができた。また、研究授業のみならず2学期には、公開授業という形で全職員が少なくとも一度以上授業を公開する取り組みも行った。

### 3、実践の成果

#### (1) 教師の変容

日頃から積極的に話し合い活動を取り入れた授業を行うようになったと考える。研究協議では、教員同士で実際に6つの手立てを用いながら協議を進めることで、生徒に行わせる際にどのような雰囲気をつくり、どのような言葉かけをするとよいか考えながら取り組むことができた。



協議後の黒板

#### (2) 子どもの変容

6つの手立てを用いた話し合い活動には、少しずつ慣れてきたように感じられる。生徒自ら話し合いを進めようとする姿勢が見られた。意見を聴く側も発表者が話し終わると拍手をしたり、「いいです。」と反応を返したりと、温かい雰囲気での話し合いを進めることができていた。



2年生の校内研究授業

### 4、今後の展開

#### (1) 残された課題

話し合い活動に対して教員、生徒ともに自然と取り組むことができるようになってきた。しかし、全員挙手の話し合いをする際、どうしても意見を発信することが苦手な生徒がいる。このような生徒に対して、どのようにして意見を引き出すか、手立てや課題設定を検討していくことが重要である。それにともなって、話し合いの授業ばかりでは、知識習得の時間が十分に確保できないという場合もあると考えられる。

#### (2) 今後の研究について

活発な話し合い活動を行うために、その学習集団がどのような意見でも受け入れることができる集団にしたい。そのための集団づくりの方法を考えていく必要がある。そして、その集団で話し合い活動を積極的に行うためには、小学校からの積み重ねがとても大切である。小学校と一貫した取り組みを行うために、小学校で行っている6つの手立てを活用した授業づくりを中学校でも引き継いで、それを実践していくことが求められる。また、話し合い活動がより活発になるよう、今後は知識の習得にも力を入れた授業づくりと授業力を高める取り組みをしていきたい。そのため、どこで話し合いをして、どこで知識習得をさせるかという単元計画を十分に考えていく必要がある。ただし、これら課題解決だけに目を向けるのではなく、日頃からの小中一貫教育の取り組みが教員の負担になりすぎないように研究を推進していきたい。